

## 12 総 括

本市の水道事業会計に関する財政状況については、概ね次の(1)及び(2)のとおりと分析される。

### (1) 損益勘定

当年度の損益の状況を見ると、純利益は、前年度と比較して 17,238,971 円 (11.2%) 減の 136,005,428 円となっている (P5)。これは収益で給水収益の減、費用で総係費の増となったことが主な要因となっている。

給水収益は 841,843,932 円で、前年度と比較して 9,946,091 円 (1.2%) の減となっている。これは主に家庭用・団体用で火力発電所 3 号機関連の水需要が減少したことによるものである。北部地区への配水管整備事業等により、給水戸数の若干の増加が見込まれるものの、人口減少により減少傾向が続くものと想定される。

費用については、臥竜山浄水場及び配水場解体に係る設計委託料等が増となっている。今後も配水管の老朽化に伴う更新事業や、北部地区配水管整備事業に係る減価償却費等の増加が見込まれる。

### (2) 貸借対照表勘定

貸借対照表勘定を見ると、流動資産は、前年度と比較して 111,289,759 円 (16.8%) 増の 774,884,295 円で、流動負債は、前年度と比較して 81,878,650 円 (15.0%) 増の 627,987,163 円となっている (P9)。

資金繰りの安定性を示す流動比率は、前年度と比較して 1.9 ポイント増加し 123.4% で 100% を超え安定した状況となっている (P38)。

固定負債については、企業債残高の減少により、前年度と比較して、186,423,109 円 (3.7%) 減の 4,819,573,646 円となっている (P9)。

以上のような財政状況を踏まえ、特に次の事項について留意されたい。

### (3) 個別留意事項

#### ① 有収率について

経営に大きく影響する有収率は、78.5%で前年度と比較すると3.4ポイント低下している（P3）。県内各市の平均有収率（76.9%）を上回っているが、ここ数年の推移を見ると低下傾向にある。

低下の主な要因は漏水量の増加にあるので、老朽管更新事業と令和2年度から実施している漏水箇所調査委託により、効果的な漏水対策を行い有収率向上を図りたい。

#### ② 企業債等について

企業債の当年度末残高は5,194,098千円となっており（P13）、平成19年度の7,454,492千円をピークに年々減少している。

企業債元利償還金についての料金収入に対する比率は56.3%で、30年度全国平均（33.9%）を上回っているが、年々減少傾向にある。

今後も企業債の借入については、経営を圧迫することのないよう長期的な財政見通しに基づいて建設改良事業を十分精査し、計画的に執行されたい。

#### ③ 給水収益の収入率と滞納繰越について

給水収益の収入率は前年度と比較して現年度分で0.2ポイント、繰越分で0.8ポイント向上している。（P15）

給水収益の繰越分の未収入額が前年度と比較して730,650円の増となっており増加傾向にある。今後も受益者負担の公平性の観点から、定期的に連絡を取り未納者の状況把握、納付督促など滞納が発生しないよう、徴収委託業者と連携のうえ収益の確保に努められたい。

#### (4) むすび

水道事業会計は、営業収支比率や経常収支比率、資金繰りの安定性を示す流動比率の状況を見ると、安定した経営状況となっている。

経営の基本計画となる「能代市水道事業経営戦略」（平成29年度～令和8年度）の投資・財政計画と比較すると、純利益などは計画の範囲内であり、現時点では経営環境に大きな変化がない限り、見込みどおり推移するものと思われる。

今後、人口減少や節水意識の浸透により給水収益の減少が見込まれるので、有収率の向上や収入の確保、経費節減等に取り組み、合理的で効率的な水道事業の運営を図り安全で良質な水の安定供給に努められたい。